

# 韓国大学生日本語ディベート大会 細則

2013年6月8日改訂

## 細則1 試合フォーマットに関する細則

|         |    |         |    |
|---------|----|---------|----|
| 肯定側立論   | 6分 | 否定側準備時間 | 2分 |
|         |    | 否定側質疑   | 3分 |
|         |    | 否定側立論   | 6分 |
| 肯定側準備時間 | 2分 | 否定側準備時間 | 2分 |
| 肯定側質疑   | 3分 | 否定側第1反駁 | 4分 |
| 肯定側準備時間 | 3分 |         |    |
| 肯定側第1反駁 | 4分 | 否定側準備時間 | 2分 |
|         |    | 否定側第2反駁 | 4分 |
| 肯定側準備時間 | 2分 |         |    |
| 肯定側第2反駁 | 4分 |         |    |

※ 各ステージにおいて持ち時間が余った場合、担当ディベーターはスピーチが終わった旨を明確にし、席に戻ることを。

## 細則2 反則行為に関する細則

1. 大会に出場者として登録されていない者が出場したとき。
2. あらかじめ届けられた担当ステージと異なるステージを担当したとき。
3. 同一のディベーターが2つのステージを担当したとき。ただし、やむを得ない事によるものは除外する。
4. 司会者の指示に従わず、試合の継続が困難と判断されるとき。
5. 証拠資料をねつ造、改変、著者の意図を曲げるような不適切な省略をしたとき。
6. 各チームのディベーターが、試合中にチームのディベーター以外の者と相談をしたり電話・パソコン等、使用が禁止されているものを使用して外部と通信したりしたとき。
7. 相手チームから、事前に提出した証拠資料以外の証拠資料提示が求められた際、これに応じないとき。
8. 各ステージに与えられた制限時間を守らなかったとき。
9. 著しくマナーに反する行為があったとき。
10. その他、ディベーター及びアドバイザー並びにチームの関係者が大会運営に重大な支障を生じさせたとき。

## 細則3 判定に関する細則

勝敗の決定は、基本的に、次のように行う。

### 1 個々の論点

個々の論点については、次の基準で判断する。

1. 一方のチームが根拠を伴って主張した点について、相手チームが受け入れた場合、あるいは反論を行わなかった場合、根拠の信憑性をもとに審判がその主張の採否を判断する。
2. 一方のチームの主張に対して相手チームから反論があった場合には、審判は両者の根拠を比較して主張の採否を決定する。すなわち、主張の根拠が反論の根拠よりもすぐれている場合には主張を採用し、そうでない場合には主張を却下する。この際、一般には次のような基準が考慮される。
  - a 根拠を伴うものは、根拠を伴わないものより有利になる。
  - b 論理的理由づけのうち、より緻密なものがそうでないものより有利になる。
  - c 証拠資料のうち、事実報告においては具体性・媒体の性質など、統計資料においては調査時点・調査方法など、専門家の見解においては理由づけの良さ・専門性の高さなどの観点で優れているものが有利になる。

### 2 個々のメリット(あるいはデメリット)の大きさと数

審判は、個々の論点についての決定に基づき、次のように個々のメリットあるいはデメリットの大きさを判断する。

1. 発生過程については、メリットあるいはデメリットとして述べられたことが、プランを導入した場合のみに確実に発生すると言えるかどうかを判断する。一部分のみ発生するという判断、あるいは逆の事態が発生するという判断もありえる。現状のままでも発生すると言える部分は、メリットあるいはデメリットから除外する。
2. 重要性／深刻性については、発生すると判断された部分についてのみ、それがどれだけ重要か／深刻かを判断する。ここで判断された重要さ／深刻さの程度が、メリットあるいはデメリットの大きさとなる。メリットとして主張されていたことが実は深刻なデメリットであった、あるいはデメリットとして主張されていたことが実は重要なメリットであったという判断もありえる。

### 3. メリットの全体とデメリットの全体の比較

審判は、個々のメリットあるいはデメリットの大きさについての判断に基づき、メリットの全体とデメリットの全体のどちらが大きいかを決定する。なお、互いに類似した複数のメリットあるいはデメリットがある場合には、重複を排除して全体の大きさを判断する。

## 細則4 コミュニケーション点に関する細則

1. コミュニケーション点とは、コミュニケーションの責任を、ディベーターがどれだけ果たしていたかをマナーも加味して評価するものである。適切な速度、十分な声量その他、日本語としての発音、文法の適切さ、語彙の選択、適切な表現力、さらには説得力及び非言語コミュニケーションも評価に含まれる。

2. コミュニケーション点は、立論・質問・応答・第一反駁・第二反駁のそれぞれを、次の基準を参考に5段階評価するものである。

「5点」非常に優れている

「4点」優れている

「3点」普通

「2点」改善の必要がややある

「1点」改善の必要がかなりある

### 3. 各項目の説明

#### 「立論/応答」

- ・話し方 : 発音、アクセント、声量、速度、間の置き方、強調など、聞き取りやすいスピーチができているか
- ・議論の構成 : ナンバリング、ラベリング、主張と根拠、証拠資料の引用の仕方、メリット/デメリットの3要素などが正しくなされているか。
- ・応答の的確さ : 質疑に噛み合った応答、質疑に対するすみやかな応答、適当な応答の長さ、

#### 「質疑」

- ・表現の的確さ : わかりやすい表現を使い、質疑ができているか
- ・質問の的確さ : 意見を述べたりせず、質疑ができているか。
- ・質問の態度 : 礼儀正しい態度で質疑ができているか。

#### 「第1反駁」/「第2反駁」

- ・表現の的確さ : わかりやすい表現を使い、反論できているか。
- ・分析の深さ : 相手の主張の理由/根拠/証拠をついたりしながら、論理的な反駁ができているか。
- ・議論の構成 : サインポスティング、ナンバリング、ラベリング、主張と根拠、証拠資料の引用の仕方が正しくなされているか。
- ・反駁の質、量 : 相手の議論全体にバランス良く反駁できていたか、重要な議論に反駁できていたか。
- ・要点のアピール : お互いの議論に優位性をしめしたり、比較したりするなど、要点を説明できているか。

選手は、発言内容を審判・聴衆・相手チームにわかりやすく伝えるようにしましょう。発言内容がどんなに優れたものであっても、審判が発言内容を適切に理解できなければ判定に考慮されません。わかりやすい話し言葉に変えたり、相手や審判が書き取りやすい速度で話したり、数字や単位をはっきり述べたりすることが説得力につながります。いくら素晴らしい論であっても、誰にもわからなければ、それは採用されません。

## 韓国大学生日本語ディベート大会運営委員会

E-Mail : [nihongodebate@gmail.com](mailto:nihongodebate@gmail.com) Homepage : <http://www56.atwiki.jp/k-debate/>

Facebook : <http://www.facebook.com/KoreaJapanDebate> Twitter : <https://twitter.com/nihongodebate>

注)この大会規則は、台湾の「全国大学生日本語ディベート選手権」の運営委員会が作成した『全国日本語ディベート選手権規則』(2011年2月22日改正)を参考とさせて頂きました。